



©2005 石塚真一小学館

島崎三歩の山岳通信 特別連載 Vol.1

信州 山のプロフェッショナル

長野県の山岳地域で発生した遭難事例を原則 1 週間ごとにお伝えしている「島崎三歩の山岳通信」。その特別連載として、季節ごとに発行する「山岳情報」に初登場！

今後は、信州の山で多方面に活躍する“プロフェッショナル”の方々の声を、皆様にお届けします！（聞き手：編集部）

Vol.1 山岳遭難救助のプロフェッショナル

長野県警察山岳遭難救助隊 隊長 榎引知弘さん

平成5年長野県警察に拝命し、平成8年山岳救助隊員に指名。機動隊5年、安曇野署2年、茅野署2年、航空隊通算8年を経て、平成29年3月に隊長に就任。隊員歴は18年目。好きな山は八ヶ岳（通算で5年間茅野署に勤務していたので）。



「登山は安全に下山してこそ、最高の思い出になります」（榎引）

一山岳遭難救助隊(以下「山岳救助隊」)を率いる隊長というお立場ですが、山岳救助隊の皆さんはどのような仕事をしているのですか？

榎引 長野県は日本有数の山岳県として、毎年多くの登山者の皆様に訪れていただいています。その一方で、悲しい山岳遭難も数多く発生しており、平成28年の山岳遭難は272件、日本で最も遭難が発生しているのが長野県の現状です。山岳救助隊は、長野県警の中で35名が指名されており、本部山岳安全対策課、警備部機動隊、県警航空隊、山岳を管轄する県内5つの警察署に配置され、発生する山岳遭難に救助隊員として出動し、陸上から、また空から、遭難者の救助にあたっています。私は、隊長として、救助隊員がより安全で、より早い救助が行えるよう、全体的な指揮を執っています。

一そんなに多くの遭難が発生しているんですね!遭難される方の特徴はあるのですか？

榎引 統計的に言えば40代以上の方、特に60代以上の方は全体の45%を占めており、特に注意が必要だと思います。ただ、若い登山者の方についても、遭難が起きていないわけではありません。技術が未熟だったり、道具の使い方を知らなかったり、体調管理ができていなかったりと、様々なことが遭難の原因となります。山岳遭難はいつ、だれに起きてもおかしくないことなのです。

一数多くの救助活動を経験されていると思いますが、特に大変だった活動はありますか？

榎引 これまで数百件の遭難現場に出動しましたが、一つとして簡単な救助はありませんでした。遭難現場が同じ場所でも、遭難者の負傷状態や天候等で救助条件は大きく変わりますし、何よりも「人」を「人」の力で救助するのは並大抵のことではありません。私自身、航空隊での勤務が長かったので、主に県警ヘリで救助活動を行っていました。

が、天候や地形上の理由で遭難者をピンポイントで救助できない場合は、結局、地上で背負って移動し、最終的にヘリで救助するといったことも少なくありませんでした。

「常に平常心を保ちながら、より安全で、より早い救助活動をするということは、非常に大変なことなのです」（榎引）

一救助活動は本当に大変なのですね…。救助に際して心がけていることはありますか？

榎引 救助活動で一番難しいのが、僅かなミスも許されないということです。私は常々、救助隊員に対し「救助は負けの許されない真剣勝負」と話をしてしています。スポーツの勝負は例え負けても、次があります。しかし救助活動中は、「負け」すなわち活動中の失敗は遭難者や救助隊員の生命に関わる二重遭難を意味します。怪我で苦しむ遭難者を前に、常に平常心を保ちながら、より安全で、より早い救助活動をするということは、非常に大変であることを、登山者の皆さんには知ってもらいたいと思います。

一皆さんの活動があってこそ、私たちが安心して信州の山を楽しんでいるんですね。信州の山をより安全に楽しむために、皆さんにアドバイスをお願いします。

榎引 一つ目は、登山をする際は、必ず登山計画を立て、登山計画書をインターネットや登山口に提出するとともに、家族の方に知らせておくということです。

長野県では、昨年7月から「登山安全条例」により、登山計画書の提出が義務付けられています。登山をする際は、その山に登るにはどのくらい時間がかかり、どんな装備が必要で、どんな危険な箇所があるかなど、しっかりと下調べをした上で、計画を立て、万全な準備をして登山をしていただきたいと思います。

二つ目は、自分の体力、技術、知識に見合った山を選んでもらいたいということです。長野県には、里山から3,000m級の山まで、どんな人でもそれぞれのスタイルで楽しめる山が数多くありますが、その反面、多くの危険も潜んでいます。標高が低い里山が絶対に安全だとは言えませんが、いきなり3,000m級の山に登るのは体力的にも、技術的にも、知識的にも非常に無理があります。

やはり、登山をするのであれば、自分の力量にあった山から徐々にステップアップをすることが大事ですので、長野県で発表している「信州 山のグレーディング」という登山ルート別の難易度評価を参考に、無理のない登山をしてほしいですね。

最後に、登山は安全に下山してこそ、最高の思い出になります。安全登山を心掛け、信州の魅力ある山を思い切り楽しんでもらいたいですね。

一使命感を持って任務にあたる榎引隊長の熱い想いをお聞きました。山岳救助隊の皆さんに山で会うときには笑顔でいられるように、常に安全な登山を心掛けたいですね！



山岳救助隊と県警ヘリコプターによる救助の様子。隊員は本当に命懸けて救助活動にあたることを忘れてほしい。